



# みなみの風

坂下南小学校  
学校だより  
NO. 4  
R6. 4. 19  
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

## “ダメな子”なんて一人だっていない

“ダメな子”とか、“わるい子”なんて子どもは、  
ひとりだっていないのです。

もし、そんなレッテルのついた子どもがいるとしたら、  
それはもう、その子たちをそんなふうに見ることしかできない  
大人たちの精神が貧しいのだ、  
と、きっぱり言うことができます。

手塚治虫（漫画家）著『ガラスの地球を救え』光文社 から

私も若いころ、自分の思うようにコトが進まないと、苛立って子どもに  
きつくあたってしまうことがありました。

「なにやってるんだ」

「何回、言えばわかるんだ」

後味の悪さを知っているにもかかわらず、言葉は止まりません。

そんな時、まだまだ自分は「精神が貧しいな・・・」と、自己嫌悪に

なりました。そんな時、上記の手塚治虫の言葉を思い出し反省します。“ダメな子”なんて一人も  
いない！ 子どもたちの前で堂々と言える教師であり、大人でありたいと思っています。態度で、  
実践で、それを示せるように努力していきたいと思っています。



## “あいさつ”は幸せの分かち合い



生活委員会のあいさつ運動。「おはようございます」  
の爽やかな声が響き渡ります。

本当の幸せとは、誰かと分かち合うことで生まれてくる  
と思っています。相手が喜んでいる顔、その顔を見ている  
だけで自分の心があたたかくなってきますね。

「今よりもっと幸せになりたい」、「もっと心豊かにな  
りたい」その方法はとても簡単です。それは自分以  
外の誰かを幸せにすることだと思っています。そのための  
手っ取り早くいつでも簡単にできるのが「あいさつ」  
です。まわりの人に向かって「おはようございます」  
と笑顔であいさつをします。笑顔を向けられて不機嫌  
になる人はいないと思います。その笑顔とあいさつに、  
相手の心はきっと柔らかくなるでしょう。すると相手

の笑顔がまた自分のところに返ってきます。この関係にこそ、人としての幸せが宿っています。そして気  
がつけば、自分のまわりを幸せの風が包んでいます。

保護者の皆様には、あいさつについてお子様と話をする機会をつくっていただけたら幸いです。



# 図書館オリエンテーション

本校司書教諭と町図書館司書が連携して、2年生から6年生を対象に図書館の利用の仕方や本の探し方、読書の面白さ等についてのオリエンテーション（国語科の授業）を行っています。子どもたちには、このオリエンテーションをきっかけに学校や町の図書館を大いに活用して本に親しんでほしいと思います。



本の世界へ…

町図書館司書の方がお気に入りの絵本を読み聞かせしてくださいました！



## 読書で心のストレッチ！



心は身体と同じで、いつも動かしていないと、すぐにカチカチに硬くなってしまいます。読書、映画、音楽、スポーツなど、よいものにふれると人は感動で心をふるわせます。これらのものには、人の心を揺り動かしてストレッチする柔らかな力があります。

みなさんは、最近、どんなものにふれて心のストレッチをされましたか？ 忙しい毎日ではありますが、上手に時間を見つけて心のストレッチをしたいものです。

そこで、親子で読書に親しみながら心のストレッチをしてみたいか？ 本を一冊丸ごと読まなくとも、パラパラとページをめくって気に入ったところを読むだけでもよいと思います。また、ページをめくって気になる文や言葉に出ったらマーカーでしるしを付けて、親子でそれぞれが気になったところについて感想を話し合ってみます。これだけでもその時間は楽しく充実したものになるかもしれません。

子ども達には読書に親しんでほしいと願っています。数年前のNHKのテレビ番組で、子どもを読書好きにするのに最も効果があるのは、「周りの大人が本を読んでいる姿を子どもたちに見せること」だと言っていました。保護者の皆様にもぜひ、子ども達と一緒に読書に親しんでいただければ幸いです。

## スケジュールの行間

～家族をつくるもの～

毎日の、ほんとうにささやかな、どうということのない暮らしの連なり——

「歴史」と呼ぶには大げさでも、ただの年数では語り尽くせない、厚みを持った時の流れが、家族をつくっていきます。

仕事を終えて、帰宅し、夕飯後に家族でテレビを観ながら、「このタレント、〇〇ちゃんに似てないか？」 「あ、ほんとだ、そっくり！」とうなずき合う。夏の夜、風呂上りに食べようと思っていたガリガリ君（アイス）を、「ごめーん、おいしそうだから食べちゃった！」と娘に先を越されてガックリする。—— 私は、そういう瞬間にこそ幸せを実感する男なのです。暮らしが続く。季節がめぐる。時が流れる。誰かと比べる必要はないし、声高に何かを訴えなくてもいいのです。「生きる」って、ただそれだけで、結構すごいじゃん、と私は思うのです。



みなさんの手帳やスマートフォン、スケジュール表には、公私ともども、様々なイベントや用事のスケジュールが記されていることと思います。でも、もしかしたら、一番大切なものは、**スケジュール表に書くことのできない、平凡な日々の一瞬一瞬に潜んでいるのかもしれない。**

私には4人の子どもがいますが、皆成人し、社会人となり、それぞれ自宅を離れて生活しています。一つ屋根の下、家族みんなでワイワイ賑やかに暮らしていた頃を懐かしく思います。

子育ては手がかかって大変ですが、今思えば、とても幸せな家族の時間だったなとしみじみ思います。保護者のみなさん、大いに子育てを楽しんでくださいね。新年度がスタートしました。みなさんのスケジュール表の行間に、素敵な家族の思い出が刻まれることを願っています。